

サステナビリティ経営のこれから

アンリツのサステナビリティ経営は進化を続けていきます。

法令遵守と社会貢献中心のCSR推進から社会課題の解決により持続可能性を追求するサステナビリティ推進に舵を切り、多くのことを学び実践してまいりました。当初は経営層からのトップダウンで幹部職層までの浸透だった活動が、最近では社員一人ひとりにSDGsの自分ごと化として浸透しつつあります。これまでのサステナビリティ経営をより明確にサステナビリティ方針に落とし込むため、2021年4月の経営ビジョン、経営方針、ブランドステートメントの刷新に合わせてサステナビリティ方針を改定いたしました。アンリツのサステナビリティ経営が目指す未来は、事業を通じて社会課題の解決に貢献すること、社会の要請に応える課題解決に貢献すること、そしてコミュニケーションの推進による共有価値の創造をすることにより、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献して、企業価値を向上し、社会から成長・発展を望まれる企業となることを目指しています。その考え方を表現いたしました。改定後の内容には、2015年に国連において全会一致で採択されたSDGsのアジェンダにある5つのP(People、Planet、

Prosperity、Peace、Partnership)の要素が包含されており、サステナビリティ経営の明確な指針となっていると考えています。

主要な部門の代表者からなるサステナビリティ推進会議を中心に、重点項目を明確にして情報共有し、各代表者から各部門に展開・浸透させて推進します。また執行役員・理事からなる経営戦略会議や取締役会においても議論して進めています。各部門で設定した取り組みをKPIの進捗も含めてPDCAを回し、経営層からのフィードバックと社員一人ひとりの活動・意見など、建設的な意見交換・議論のできる場として機能させています。

社会の要請に応えるESG課題は、環境・社会への悪影響を最小限に抑えるものと捉え、社員と経営層が一体となって進めていくことが必要です。そのため2030年目標のマイルストーンとなる中期経営計画GLP2023にESG課題と目標をKPIとして設定し、明確な全社目標として取り組みます。気候変動対策活動PGRE 30(自家消費の再エネ自家発電比率30%を目指すもの)、多様な人材の活躍を目指すダイバーシティやサプライチェーンにわたる人権問題への取り組み、事業活動による産業と技術革新の基盤づくりを推進して、持続可能で魅力的な未来を次世代につないでまいります。

 P.01 共に持続可能な未来づくりを サステナビリティ方針



常務理事
サステナビリティ推進室長
高木 章雄

サステナビリティ推進体制

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ活動を推進しています。2020年4月に活動の中心を担うサステナビリティ推進会議のメンバーを増員し、アンリツグループ全体で丸となった取り組みを加速しています。なお、ESG課題や取り組みの進捗報告を経営戦略会議や取締役会に上申しており、2020年度は、取締役会でのESG課題に関する議論は9件でした。

